

総括評価表

重点課題 1

「質の高い授業の展開と確かな学力の向上」
*「評価指標」の()内は、昨年度の目標→実績

重点目標	自己評価		学校関係者評価		今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価	総合評価	総合評価(評定)	
(全体レベル)	評価指標 生徒の総合的評価「授業満足度」85%以上 (昨年度:85%目標→未調査)	評価指標による達成度 生徒の総合的評価「授業満足度」 78.4% (3年:78.2%, 2年:76.7%, 1年:80.2%)	評定 B	総合評価 評定	B
	①進研模試3教科 1年7月→2年11月 過回対比偏差値45.0以上の人数比較 75.0% (73.0%目標→71.9%) ②1日の平均学習時間 1.0時間未満の生徒数 60人以下(60人目標→65人)	①進研模試記述3教科1年7月→2年11月 過回対比偏差値45.0以上の人数比較 62.2% ②1日の平均学習時間 1.0時間未満の生徒数 78人	C C	B	
(下位組織レベル)	③生徒による授業評価「理解が深まっている」 生徒割合 85%以上(85%目標→未調査) 「興味・関心が高まっている」生徒80%以上 (80%目標→未調査)	③生徒による授業評価「理解が深まっている」生徒 80.5% (3年:78.4%, 2年:79.0%, 1年:83.8%) 「興味・関心が高まっている」生徒 72.3% (3年:72.8%, 2年:69.2%, 1年:74.6%)	B	所見 ICTの効果的な活用、カリキュラムマネジメントが機能する授業展開等により、指導方法の工夫・改善が図られている。今後も、オリジナリティあふれる授業の展開や、学びの振り返りの習慣化、他教科との関連等を実践し定期的、長期的な個別指導も含め、生徒の関心や意欲、能力、実態等に応じたきめ細かな指導の充実に努める。	
	④朝食摂取率 93%以上(92%目標→92.5%) 栄養バランス度 74%以上 (70%目標→73.1%)	④朝食摂取率 91.6% 栄養バランス度 74.7%	B		
①基礎学力、受験学力の向上	⑤図書貸出冊数一人 10.0冊以上 (10.0冊目標→7.5冊) 生徒一人あたりの入館回数 10回 (新規 昨年度9.6回)	⑤図書貸出冊数一人 7.8冊 生徒一人あたりの入館回数 10.2回 (5月中旬まで全国一斉休校を考慮すると、概ね目標達成。)	B	学校関係者の意見 学力向上のため、様々な取組をしていることは評価できる。生徒にとって消化不良にならず効率よく学習できるように強化の連携を一層深めてほしい。 生徒、保護者の意識を高め、教師の質の高い授業が展開されることを希望する。	
②家庭学習の習慣化と家庭との連携	⑥進路に対する高い意欲を有する生徒の割合 85%以上(85%目標→83%) 学年別進路保護者会出席率 55%以上 (55%目標→44.5%) 進路決定率 100%(100%目標→99.5%)	⑥進路意識度 76.5% 学年別進路保護者会出席率 50.9% (3年:53.1%, 2年:58.0%, 1年:41.1%) 進路決定率 97.8%	C		
③教科指導力の向上と授業の質的転換	⑦取得資格受験率 34.5%(新規 昨年度34.3%) 最終合格率50%以上(50%目標→44%)	⑦取得資格受験率 33.0% (検定実施回数 英検2回, 数検1回) 最終合格率 50.8%	C	1年生の進路保護者会の出席率が少し低いのが気になるが、全体的にはコロナ禍の中、多くの保護者が出席してくれている。 進路ガイダンスにより生徒の関心は高揚している。	
④生活習慣の改善と健康管理	活動計画 ①-1 学習レディネスの形成(進, 糖)	活動計画の実施状況 ①-1 授業中や授業の終わりに、次回の授業に関連した簡単な課題(効果的な学習が進むよう授業と関連づけたもの)を提供した。生徒が自ら考えて課題に取り組むことで、興味・関心の高まりと事前知識の獲得につながった。			
⑤読書習慣の定着化、読書内容の向上	①-2 基礎的・基本的知識等の定着(糖)	①-2 週末課題の提供と適切な評価はもちろん、ミニテスト等の計画的実施及び事後指導の徹底を図った。基礎・基本的な知識の定着は進んだが、思考力、判断力等の育成が課題である。また、各模試について、過去問等を活用した事前指導、終了後の復習指導を行った。個々の弱点やミスの傾向に気づき、勉強方法等の改善につながっている。			
⑥進路意識の高揚	①-3 学力養成講座(補習等)の効果的な実施と時間の確保(糖)	①-3 早朝、放課後、土曜補習について、退職教員等の経験と技も活用しながら、可能な限り組織的・計画的に実施した。コロナ禍、天候等の影響も多々あり、十分な時間確保はできなかったが、休校措置による学び、考える意欲の取り戻しができた。			
⑦資格取得の奨励	①-4 個別指導の効果的な実施と学習環境整備(進)	①-4 欠点保持者へのきめ細かな指導に努めた。学習進度に応じてバランス良く計画的に週末課題等を与え、アフターケアとフィードバックを行った。家庭学習の習慣化と学習内容の確実な定着が図られた。			
	①-5 主体的な活動の推進と記録の蓄積(糖, キャリア教育)	①-5 「キャリア・パスポート」を活用し、目標の設定とその達成におけるふりかえりを定期的に行い、学びや活動を記録させることができた。			
	②-1 学習時間記録の効果的な活用(糖)	②-1 「家庭学習時間調査」を実施して定期的に学習状況を把握した。学習成績との相関関係を分析し、進路実現に向けた指導に役立てた。学習時間確保に向けて、HR担任と教科担任の連携を図り、学習課題提供等の配慮につなげたい。			
	②-2 教科別学習ガイダンスの充実(糖)	②-2 教科別学習ガイド(「進路のしおり」)を活用して、教科指導の重点目標、学習内容の概要、学習の効果的な進め方等を知らせた。学習の見通しが確保され、生徒の学習に対する不安感が払拭された。また、授業への期待感が育まれ学習意欲の向上につながった。			

<p>②-3 予習を前提とした授業展開の工夫</p> <p>②-4 課題の効果的な提供(総科)</p> <p>②-5 学年別進路保護者会での効果的な情報提供(進路, 学年間)</p>	<p>②-3 次回の授業内容に直結した「読む・調べる・書く」等の課題を与え、予習したことに価値がある授業を展開した。予習で得た知識等を応用して問題を解いたり、話し合いやペアワーク、発表等を行うことにより、知識・理解が深まりと学習内容の定着が図られた。「予習→授業→復習」サイクルの自律的確立、予習が習慣化していない生徒への手立てが課題である。</p> <p>②-4 生徒の実態等に応じて、難易度や量等を工夫するとともに基礎・基本と発展的内容のバランスを考慮して提供した。自力学習力が育ちつつある。</p> <p>②-5 進路指導主事、学年主任等が、生徒の学習状況(家庭も含む)、入試制度、保護者としての心構えと必要な準備等について、各学年に応じた説明及び依頼を行った。また、外部講師(徳島大学高等教育研究センター教授 植野 美彦 様)を招聘し、大学側からの生の声(「大学を知る。入試を知る」)を届けた。丁寧な説明、親切な対応、知りたい情報の提供は、保護者の学校への信頼につながり、保護者もその気にさせることができた。</p>		<p>ルの確立と予習の習慣化</p> <p>②-4 継続実施</p> <p>②-5 学習ガイダンスの内容の伝達</p>
<p>③-1 授業公開, 研究授業の活性化(総科, 海外)</p> <p>③-2 生徒による授業評価の工夫(総科, 海外)</p> <p>③-3 授業力向上, 授業改善研修の実施(総科, 海外)</p> <p>③-4 カリキュラムマネジメントが機能している授業展開(総科)</p>	<p>③-1 9/11-9/23, 11/3-11/13 授業公開を実施した。「指導案・協議会なし」の日常的な取り組みとした。自分の指導方法を顧みる機会となり指導改善に役立った。また、生徒理解が進み、生徒のよさを生かす指導の組み立てにつながった。</p> <p>③-2 分かりやすさ、新しい知見の獲得、将来とのつながり、学ぶ面白さ、学力向上の実感を視点に授業評価を実施した。(3年1月末, 1・2年2月上旬)エクセルによる乱数を用いて、各学年60名を無作為に抽出して実施した。全体で約8割の肯定評価を得た。</p> <p>③-3 ICT活用の技術等の講習を実施した。研修会を通して、ICT活用の基本的なノウハウを獲得しスキルが向上しつつある。指導方法や授業内容改善につながっている。</p> <p>③-4 生徒の学びとそのプロセス、既習事項及び今後学ぶ単元との系統性を考慮した授業が展開できた。また、常に学習のねらいを意識し、これを生徒と共有できている。</p>	<p>教育の情報化は、ますます加速化されるであろうが、どこまで進むのか不安な面も感じる。</p>	<p>③-1 参観ポイントの掲示とアドバイスの焦点化</p> <p>③-2 継続実施</p> <p>③-3 不得意教員へのサポート体制の充実</p> <p>③-4 学びの振り返りの習慣化</p>
<p>④-1 「保健だより」による啓発(総科, 駐)</p> <p>④-2 生活実態調査の実施と活用(総科, 駐)</p> <p>④-3 食育教育の推進(総科-ダ)</p> <p>④-4 学校保健委員会での評価と改善(総科, 駐)</p>	<p>④-1 毎月1回発行し、感染症予防や健康に関する内容について生徒、教職員に周知した。</p> <p>④-2 生活実態調査の結果を、学校保健委員会や保健だよりに示し、生活習慣と学力向上とのつながりを紹介した。</p> <p>④-3 各教科、領域における指導内容を整理し、体系的に全体計画を策定した。特に食料自給率やフェアトレード、食品ロスについて学習した。</p> <p>④-4 12/8 学校保健委員会を開催した。学校医、学校歯科医より感染症やむし歯予防対策、生活習慣改善等について指導助言を得た。</p>	<p>特になし</p>	<p>④-1 心の健康に関する内容の充実</p> <p>④-2 継続実施</p> <p>④-3 継続実施</p> <p>④-4 協議テーマの工夫</p>
<p>⑤-1 魅力ある図書館づくりと読書啓発活動の工夫(情報・図書)</p> <p>⑤-2 効果的な読書活動の推進(情報・図書)</p> <p>⑤-3 学習と読書の関連性強化(情報・図書)</p>	<p>⑤-1 「図書館だより」を毎月発行し、本年度からはホームページへ掲載するなど、広く啓発活動を行った。</p> <p>⑤-2 6/9, 1/19 集団読書会を実施した。各HRの図書委員が選定した図書をHR生徒全員で読み、班に分かれて感想や考え方について意見交換した。新たな発見に出会うとともに、新たな関心が呼び起こされ、読書の意義、面白さを実感できた。心の交流が図られ、コミュニケーション能力も向上した。また、1・2年ではビブリオバトルを実施し、その中から県大会の本校代表2名を選出した。うち1名は県優秀賞を受賞した。</p> <p>⑤-3 国語の授業やキャリア教育の調べ学習等で、図書館の積極的な利用を図った。また、進路指導室では、大学入試(小論文対策等)に限らず、知の構築を目指す魅力的な本を多数提供した。社会に対する情報感度が高まり、問題意識の深まりとともに自分の意見をもつに至っている。また、新たな興味分野発見の手がかりとなっている。</p>	<p>図書の貸し出し数も休校期間があったことを踏まえると多い方ではないか。また、ビブリオバトルの取組等すばらしいものがある。</p> <p>読書推進に関して、キャリア教育の観点での取組が充実している。</p>	<p>⑤-1, 2, 3 継続実施</p>
<p>⑥-1 大学等の進路説明会への積極的な参加と報告(総科)</p> <p>⑥-2 進路情報の収集と効果的な提供(総科)</p> <p>⑥-3 進路ガイダンスの充実(総科)</p>	<p>⑥-1 コロナ禍で各大学等における説明会はなかった。</p> <p>⑥-2 受験後に提出した「受験報告書」(小論文, 面接, 感想等)過去問(赤本・青本等)を整理し紹介した。進路室利用ガイダンス等により、1・2年生の来室人数、資料活用が増えた。進路選択が現実のものとなる3年生に対しては、大学及び予備校等から全国レベルの変化等の情報を得るとともに、精度の高いデータを担任と共有しきめ細かな進路指導を行った。出願対策、進路先決定に資することができた。</p> <p>⑥-3 12/14 1・2年生を対象に進路講演会(リモート)を実施した。</p>	<p>感染症対策を行いながら教育活動を進めていく、不自由さの中で出来ることを模索していく1年間であったと思う。そのような状況中でも新しい試みを行うことが出来たのは収穫ではないか。</p> <p>1年次からのガイダンスも効果的と考える。</p>	<p>⑥-1 継続実施</p> <p>⑥-2 情報の全職員間での共有化</p> <p>⑥-3 HR担任の日常的ガイダンス</p> <p>⑥-4 ネクストリーダープログラムへの参加者増</p> <p>⑥-5 継続実施</p>

	<p>⑥-4 他校との連携(進)</p> <p>⑥-5 各種体験活動の推進(進, 教員)</p> <p>⑥-6 組織的, 計画的な企業訪問の実施(進)</p> <p>⑥-7 就職希望生徒への指導の強化(進)</p> <p>⑥-8 保護者対象の進路相談会の開設(進)</p>	<p>進路指導主事が, 入試制度のほか, それぞれの学年の現状, 今そしてこれからすべきこと等を具体的に伝えた。自己実現に向けて必要な知識, 情報を得るとともに意識改革が図られた。</p> <p>⑥-4 ネクストリーダー育成プログラムに1名が申し込み, リモートによる講演視聴, ワークショップ等を体験した。協働や対話を通して新たな気づきや発見が得られ, 自分の考えを広げ深めることができた。当初計画していた合同勉強会については, コロナ感染予防のため実施を見送った。</p> <p>⑥-5 ふれあい看護体験, 医療体験の他, 大学授業体験等を計画していたが, それぞれ中止となり 体験等の活動ができなかった。</p> <p>⑥-6 本校生が就職を希望している企業7社を訪問し本校教育をPRするとともに求人依頼を行った。内2社は卒業生のアフターケアを行った。採用担当者から採用計画, 求める人物像等についての情報収集とともに, 職場環境を知るよい機会となった。就職した生徒の相談や励まし, 心のケアができた。</p> <p>⑥-7 生徒本人や保護者の考えを十分に聞き, また, 個人的な相談に応じながら適切な進路先決定に努めた。履歴書, 志望理由書作成を通して, 社会生活上の基本的な, マナーやコミュニケーション能力等, 社会人・職業人としての基本的な能力も培った。</p> <p>⑥-8 新しい取り組みであったが, コロナ禍で開設できなかった。</p>		<p>⑥-6 組織的な取り組み(学年団等)</p> <p>⑥-7 ハローワークとの密接な連携</p> <p>⑥-8 継続的計画</p>
	<p>⑦-1 資格取得講座の開設(教)</p> <p>⑦-2 取得ガイダンスの充実(教)</p>	<p>⑦-1 英語検定は第1回を10/3(1次), 11/8(2次), 第2回を1/23(1次), 2/21(2次)に実施した。数学検定は2/13に実施した。それぞれ放課後に, 個別, グループ別指導を行った。</p> <p>⑦-2 各検定とも特徴とメリット等について, ポスター掲示とともにパンフレット等を通して受験案内を行いチャレンジを促した。</p>	<p>英検等, 資格取得を積極的に推奨してほしい。</p>	

* 「評定」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:あまり達成できなかった D:全く達成できなかった

総括評価表

重点課題 2

「支えあう仲間づくりと人権教育の推進」

*「評価指標」の()内は、昨年度の目標→実績

重点目標	自己評価		学校関係者評価		今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価	総合評価	総合評価(評定)	
(全体レベル) 一人一人を大切にし、互いに思いやり尊重する態度を育てるとともに、ともに学び励まし合い、支え合い高めあう仲間づくりをすすめ、生命や人権を大切にすることを意欲を培い実践力を身につける。	評価指標 人権学習ホームルーム活動満足度90%以上(95%目標→81%)	評価指標による達成度 人権学習ホームルーム活動満足度96%	評定 A	総合評価 評定 B	
	①学習における他の生徒との協力度 100% (85%目標→100%) ②個別人権課題「同和問題」取扱い度 35%以上 (35%目標→27%) ③校内外研究大会、研修会参加率 100% (70%目標→100%) ④地域研修会への参加教員数 10人以上 (10人目標→5人) ⑤特別支援教育相談活動に係る職員の満足度 90%以上(新規)	①学習における他の生徒との協力度 100% ②個別人権課題「同和問題」取扱い度 50% ③校内外研究大会、研修会参加率 0% ④地域研修会への参加教員数 7人 特別支援教育相談活動に係る職員の満足度 75.7%	A B C A B	所見 人権を大切にすることを意欲を培う活動を継続することにより、大多数の生徒にとっては、支えあう仲間づくりができています。一方、少ないながらも無関心な生徒や人権ホームルーム活動等の時だけ正論を主張する生徒もいる。また校外との交流が少なかったこともあり、互いを尊重する態度が育てられているかを、客観的に評価する機会を持ちにくかった。現状をさらによくするためには、想像力を膨らませたり、行動力を発揮したりする機会をさらに持つ必要がある。特別支援教育については、専門家による適切なアドバイスを受け、生徒の支援に役立てることができました。	
(下位組織レベル) ①人権が尊重される人間関係づくり、仲間づくり ②人権学習、啓発活動の充実 ③教職員研修の充実 ④地域や関係諸機関等との積極的な連携 ⑤特別支援教育の充実	活動計画 ①-1 落ち着いた学習できる環境作りの促進(全職) ①-2 生活実態調査の実施や個人面談等での実態の把握および対応(人権、生徒) ②-1 個別人権課題「同和問題」ホームルーム活動の計画的・継続的な実施(人権) ②-2 人権問題啓発講演会、映画会の継続的な実施(人権) ②-3 生徒の主体的な啓発(交流)活動の企画・実施、成果等の発信(人権) ②-4 校内人権問題意見発表会の実施(人権) ②-5 「阿波高人権の日」に係る生徒主体の啓発活動の実施(人権) ③-1 指導方法の工夫、改善を図る研修会の実施(人権) ③-2 各種研究大会、講演会への積極的な参加と報告の徹底(人権) ③-3 生徒と学ぶ研修会の実施(人権) ④ 地域や市役所等との連携(人権) ⑤-1 特別支援体制の確立(教育相談) ⑤-2 相談活動及び専門機関等へのコーディネート(教育相談) ⑤-3 教職員の生徒理解、支援能力の向上(教育相談)	活動計画の実施状況 ①-1 すべての教科及び人権学習において協働学習が取り入れられた(毎時間という意味ではない)。 ①-2 生活実態調査や個人面談等で、いじめの実態把握と対応が迅速に行われた。 ②-1 様々な人権問題を、3年間を通して系統的に学習できるように実施した。 ②-2 7/31学校での映画会はできなかったため映画「聲の形」(TV放送)を推奨し、多くの生徒が観賞した。また、9/29谷村千絵氏による「コロナと人権」と題した講演会を実施した。 ②-3 じんけん部員と有志の生徒で、地域の施設で小学生に向けて、新型コロナウイルス感染症に係る人権侵害がないように啓発する紙芝居を作成した。また、じんけん部員はオンラインも含めた「中・高生による人権交流集会」にも参加した。 ②-4 10/6選ばれた6名が個々の視点で人権問題についての考えを発表した。 ②-5 2年生人権委員では、自分の興味のある人権課題について調べ、人権の日の資料を作成することができた。1・3年生人権委員では、人権新聞にて意見を発表することができた。 ③-1 学年別研修会および選考授業研究を行った。 ③-2 本年度はコロナ禍のため、各種研究大会や講演会が中止となり参加ができなかった。 ③-3 推奨映画や講演会の内容について、生徒の感想を読んだり、担任や教科担任が授業の折に話題に触れることで共に学んだ。 ④ 有志の生徒による紙芝居披露を、地域の2施設で行った。 ⑤-1 既存の校内組織を活用して体制を整えた。当該生徒については、情報提供や教育相談を行い、本人や保護者の心情等に配慮しつつ支援した。 ⑤-2 迅速かつ適切なつなぎを心がけ、総合教育センターへの電話相談やスクールカウンセラー派遣事業、巡回相談につなぐなど、適切な相談活動及び専門機関等へのコーディネートを行った。 ⑤-3 9/29 鳴門教育大学 谷村千絵氏を招聘し「コロナと人権」の講演を聴き研修を行った。	学校関係者の意見 特になし 新型コロナウイルス感染症による差別や誹謗中傷は、学習題材として取り上げてほしい。紙芝居等の作成や小学生の交流活動など地域との交流ができ成果が上がったと思う。生徒主体の活動ができていることは素晴らしい。SDGs, LGBT等をテーマとして欲しい。 研修については、多忙とは思われるが、ぜひお願いしたい。コロナの影響であろうが、校外との交流が少ない気がする。評価方法についてもSNSの活用も考えられる。	総合評価 B	①-1 さらに深化した仲間づくりのための工夫 ①-2 継続実施 ②-1 今日的な人権問題の、ホームルーム活動での取り上げ ②-2, 3, 4, 5 継続実施 ③-1 教科を越えた横断的な指導方法の確立 ③-2 校内での研修方法の工夫と実践 ③-3 継続実施 ④ 継続実施 ⑤ 継続実施

* 「評定」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:あまり達成できなかった D:全く達成できなかった

総括評価表

重点課題 3

「キャリア教育の推進」

*「評価指標」の()内は、昨年度の目標→実績

重点目標	自己評価		学校関係者評価		今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価	総合評価	総合評価(評定)	
(全体レベル) 自らの成長に気づかせ、自己の価値観を形成させながら進むべき道を描けるようにさせるとともに、地域社会の一員としての自覚を持たせ、地域社会に貢献しようとする意欲を高める。	評価指標 基礎的・汎用的能力に関する「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の「4つの能力」について、調査した指標の値の増加10ポイント以上(新規)	評価指標による達成度 生徒の自己評価を7月と11月に調査し、その変化を数値化して評価した。調査は、「4つの能力」各々に当てはまる具体的な複数の項目の達成状況を回答する方法で行った。 「人間関係形成・社会形成能力」・・・7.5ポイント増加 「自己理解・自己管理能力」・・・7.5ポイント増加 「課題対応力」・・・8.0ポイント増加 「キャリアプランニング能力」・・・7.5ポイント増加 それぞれの能力において、10ポイント以上の増加は見られなかった	評定 C	総合評価 評定 B	キャリア教育における、基礎的・汎用的能力の向上に基づいた評価指標のわかりやすい提示 教職員、生徒に対し、価値づけとなる取組の展開
	①キャリア教育に関する内容にかけられる授業時間数 年間6時間(新規) ②キャリア教育に関するプログラムの実施 各学期1回以上(新規)	①キャリア教育に関する授業時間数 年間6時間(1年) 年間6時間(2年) ②キャリア教育に関するプログラムの実施 各学期に1回以上実施	A	A	
(下位組織レベル) ①キャリア教育に関する計画等の整備の推進 ②キャリア教育に関する実施プログラムの充実	活動計画 ①-1 キャリア・パスポートの作成と活用(進路・総探) ①-2 「総合的な探究の時間」やホームルーム活動でのキャリア教育に関する内容の増加(進路・総探) ①-3教職員に対する研修の実施(初等教育推進委員会) ②-1 地域社会、産業界との連携(総探、就職) ・社会人講師の招聘 ・企業、行政施設等の訪問 ②-2 大学・専門学校等との連携(進路・総探) ・学部・学科説明会の実施 ・アカデミックインターンシップの実施	活動計画の実施状況 ①-1 キャリア・パスポートを作成し、ホームルーム活動等で生徒に取り組みせることができた。さらに、生徒が記入した内容に対して、教員による評価も行われていた。 ①-2 「総合的な探究の時間」やホームルーム活動において、学びや活動の振り返りを行い、自らの成長や課題について自覚させる機会を多く設けた。特に、1年生では、様々な学問分野における今日的な課題を知る機会を多く設けた。2年生では、探究のプロセスを習得するとともに、阿波市と連携を図りながら、課題研究に取り組むことができた。 ①-3「総合的な探究の時間」における探究学習をテーマとした教職員研修を実施した。さらに、筑波大学教授の藤田晃之氏による、「キャリア・パスポートの意義と小・中・高の連携」をテーマとした講演会を実施した。その際、阿波市の小・中・高校の教員による情報交換会も実施した。 ②-1 大塚製薬から講師を招き、「キャリア教育講演会」を実施した。四国大学の加渡いづみ氏を招き「消費者教育講演会」を実施した。2年生の「総合的な探究の時間」では、阿波市企画総務課の曾我部勉氏、大道剛氏を招き、講演会を実施した。さらに、代表の生徒が阿波市役所を訪問し、市役所の担当職員に対して、事前に考えた質問をもとにインタビューを行った。 ②-2 「企業を知ろう～フューチャーセッション～」をオンラインで阿波高校で実施した。また、「科学への誘い～advanced～」における全ての講義に参加した。	所見 『『キャリア・パスポート』スタートアップ事業』の指定校となり、「キャリア・パスポート」の効果的な活用法を考案し、実践することに取り組んだ。事業を通して、新たなキャリア教育のプログラムを構築することができ、キャリア教育の充実を図ることができた。 「総合的な探究の時間」における新たなカリキュラムを構築し、運営することができた。	学校関係者の意見 評価指標の観点がわかりにくい。 キャリア教育についても様々な取組をして充実している。キャリア・パスポートは、自己の振り返りには良いものではないかと思う。 阿波市役所との連携は良いことである。今後、阿波高校の中核的な活動になるのではないか。 オンラインでの授業等を取り入れ、先生方は苦勞されたと思うが、生徒達には、新しい芽生えができたのではないか。	①-1 「キャリア・パスポート」の年間計画の作成とその運用 ①-2 阿波市との連携と、課題研究の取組の発展 ①-3 阿波市の小・中・高校の教員による情報交換会の継続 ②-1,2 外部講師による講演会やワークショップの展開

* 「評定」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:あまり達成できなかった D:全く達成できなかった

<p>⑤-3 地域の街頭補導の実施(生指)</p> <p>⑤-4 全国交通安全運動への参画(生指)</p> <hr/> <p>⑥-1 保健室相談機能の有効活用(教育相談, 養教)</p> <p>⑥-2 情報の共有化と支援プランづくり(教育相談)</p> <p>⑥-3 専門家による研修会の実施 (教育相談)</p> <p>⑥-4 教育相談週間の設定(教育相談)</p> <p>⑥-5 スクールカウンセラーの派遣(教育相談)</p>	<p>⑤-3 阿波市青少年補導員連絡協議会主催で, 生徒指導主事が4回吉野町内の巡視を行った。コロナの影響で巡視計画の回数が減った。</p> <p>⑤-4 春(4/6-4/15), 秋(9/21-9/30)の全国交通安全運動期間に, 生徒が地域の交通安全委員と協力し沿道に立ち, 交通安全を呼びかけた。</p> <hr/> <p>⑥-1 養護教諭がカウンセリング機能を発揮し, 家庭での問題や身体, 性に関する悩み等を聴き適宜担任等に報告した。</p> <p>⑥-2 「支援を要する生徒」について, 必要に応じて関係者会を開催し情報交換を行い, 指導の方向性等を検討した。</p> <p>⑥-3 教育相談職員研修会を人権教育課と合わせて実施した。9/29 鳴門教育大学 谷村千絵氏を招聘し「コロナと人権」, 10/29 おやこひろば桜梅桃李 柳谷和美氏を招聘し「デートDVとその後～自分らしく生きるためには～」の講演を聴き研修を行った。</p> <p>⑥-4 年間3回(5/25-5/29, 9/7-9/18, 1/18-1/22)教育相談週間を設定し, 個別面談等を行った。</p> <p>⑥-5 心理的な要因により学校に来られない生徒や不安を抱える生徒に, スクールカウンセラーを招聘し, 生徒や保護者のカウンセリングを実施するとともに, 支援方法について指導助言を得た。</p>	<p>支援を必要とする生徒については, 関係教職員の情報交換を定期的に行ってほしい。養護教諭の先生には, 引き続き悩める生徒の良き相談相手になってくれることを望む。相談週間等で生徒の声を聞く機会を大切にしてほしい。</p>	<p>⑤-4 継続実施</p> <hr/> <p>⑥-1, 3, 4 継続実施</p> <p>⑥-2, 5 スクールカウンセラーによるコンサルテーションの充実</p>
---	--	---	---

* 「評価」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:あまり達成できなかった D:全く達成できなかった

総括評価表

重点課題 5

「特別活動の活性化と豊かな人間性の育成」

*「評価指標」の()内は、昨年度の目標→実績

重点目標	自己評価		評価		学校関係者評価	今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	評価	総合評価	総合評価(評定)	
(全体レベル)	生徒のHR活動満足度83% (83%目標→83%) 生徒の学校行事満足度84% (84%目標→84%)	生徒のHR活動満足度83% 生徒の学校行事満足度84%	評定	総合評価	総合評価(評定)	
			B	評定		
創造的な活動を通して集団、社会の一員としての自覚を深め、よりよい生活、環境づくりに主体的に取り組む意欲と実践力を育てる。	①新企画数 3以上 (3目標→3)	①新企画数 3	A	B	B	
	②部活動加入率 87%以上 (87%目標→87%)	②部活動加入率 87%以上	B			
(下位組織レベル)	③文化祭肯定評価 92% (82%目標→92%)	③文化祭肯定評価 75%	B	所見 規範意識、公共の精神、社会貢献の意識を高めるとともに、豊かな人間性・社会性を育てている。	学校関係者の意見	①コロナ禍における活動を踏まえた工夫
	④地域清掃活動ボランティア参加者数 実施毎に 100人以上 (校外行事50人目標→85人)	④地域清掃活動ボランティア参加者数 第1回195名、第2回164名、第3回150名 (計509名)	A			
①生徒会の活性化	①-1 生徒による新しい活動の企画、運営(縮)	①-1 コロナ禍における活動として、球技大会、学校祭、予餞会全てが従来の形では行えず、感染防止の観点を重視し、新しい企画・運営で実施した。	活動計画の実施状況		部活動をはじめ、生徒会活動、校内外の活動が、コロナ禍のため感染防止の観点から、中止や自粛・縮小となり、従来通りの活動はできなかった。その中で、球技大会を学年ごとに開催したり、学校祭を午前中に体育祭、午後文化祭として縮小して実施したりしたが、生徒達の積極的な取り組みにより、困難な状況下ではあったが充実した活動を行うことができた。	特になし
②部活動の充実・活性化	①-2 学校行事への主体的な参画(縮)	①-2 生徒会「体育委員会」「文化委員会」「厚生委員会」と各部活動が、球技大会の運営、学校祭の計画・準備に加え、全て学校行事において消毒作業を行い、主体的な役割を担った。				
③学校行事(学校祭等)の活性化	①-3 社会貢献活動の企画・実施及び参加(縮)	①-3 感染防止のため、校外での活動が中止になった。	活動計画の実施状況		部活動をはじめ、生徒会活動、校内外の活動が、コロナ禍のため感染防止の観点から、中止や自粛・縮小となり、従来通りの活動はできなかった。その中で、球技大会を学年ごとに開催したり、学校祭を午前中に体育祭、午後文化祭として縮小して実施したりしたが、生徒達の積極的な取り組みにより、困難な状況下ではあったが充実した活動を行うことができた。	特になし
④ボランティア活動の推進	②-1 顧問と生徒、保護者との良好な人間関係づくり(部活動顧問)	②-1 日常的に生徒の個性を尊重し、指導を行った。部活動保護者会の開催は多くの部で実施できなかったが、連絡を密にし、大会参加などの活動計画や活動状況の情報伝達を行った。				
	②-2 部活動顧問会議の開催と意見交換(部活動顧問)	②-2 学期に1回部活動顧問会議を開催し、部員の状況や年間の取り組み等情報交換を行った。体罰禁止、熱中症対策、感染症対策の徹底等を確認した。	活動計画の実施状況		部活動をはじめ、生徒会活動、校内外の活動が、コロナ禍のため感染防止の観点から、中止や自粛・縮小となり、従来通りの活動はできなかった。その中で、球技大会を学年ごとに開催したり、学校祭を午前中に体育祭、午後文化祭として縮小して実施したりしたが、生徒達の積極的な取り組みにより、困難な状況下ではあったが充実した活動を行うことができた。	特になし
	②-3 管理職への報告・連絡・相談の徹底(部活動顧問)	②-3 感染防止と熱中症予防と対応について職員に周知し、怪我や熱中症等についての報告を徹底した。				
	②-4 部活動のスリム化(特話)	②-4 今年度24部であったが、来年度は22部となる。	活動計画の実施状況		部活動をはじめ、生徒会活動、校内外の活動が、コロナ禍のため感染防止の観点から、中止や自粛・縮小となり、従来通りの活動はできなかった。その中で、球技大会を学年ごとに開催したり、学校祭を午前中に体育祭、午後文化祭として縮小して実施したりしたが、生徒達の積極的な取り組みにより、困難な状況下ではあったが充実した活動を行うことができた。	特になし
	②-5 活動及び結果等の広報活動(部活動顧問)	②-5 11月3日の体験入学時に部活動紹介を行うとともに、中学校進学説明会等でも広報した。				
	③ 生徒の主体的な活動支援(縮)	③ 生徒会や専門委員会において、生徒からの企画・発案を促した。	活動計画の実施状況		部活動をはじめ、生徒会活動、校内外の活動が、コロナ禍のため感染防止の観点から、中止や自粛・縮小となり、従来通りの活動はできなかった。その中で、球技大会を学年ごとに開催したり、学校祭を午前中に体育祭、午後文化祭として縮小して実施したりしたが、生徒達の積極的な取り組みにより、困難な状況下ではあったが充実した活動を行うことができた。	特になし
	④ 地域清掃活動の充実(環境厚生)	④ 「地球環境を守る日」(10/28, 12/14, 2/12)を実施し、のべ509名の生徒が参加した。学校周辺の道路等の清掃活動を通じて地域への理解が深まった。				

* 「評定」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:あまり達成できなかった D:全く達成できなかった

総括評価表

重点課題 6

「環境美化と健康、安心・安全な学校づくり」

*「評価指標」の()内は、昨年度の目標→実績 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:あまり達成できなかった D:全く達成できなかった

重点目標	自己評価		学校関係者評価		今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価	総合評価	総合評価(評定)	
(全体レベル)	評価指標 校内美化に関する満足度 65% (65%目標→57.5%)	評価指標による達成度 校内美化に関する満足度 59.8%	評定 C	総合評価 評定	B
	①職員室のクリアデスク実施率 65%以上 (65%目標→37%) ②電気使用量前年度比 2%減 (2%目標→3%) ③生徒の防災意識度 75%以上 (75%目標→68.6%) ④生徒の朝食摂取率 93%以上 (92%目標→92.5%) ⑤生徒の野菜摂取率 79%以上 (75%目標→78.3%)	①職員室のクリアデスク実施率 50%以上 ②電気使用量前年度比 5%減 ③生徒の防災意識度 71.2%以上 ④生徒の朝食摂取率 91.6% ⑤生徒の野菜摂取率 83.1%	C C A B B A	総合評価 評定 B 所見 生徒の衛生美化意識、環境・エコ意識は期待値に達していない。クリアデスク等、教職員の率先した取り組みが必要である。教職員が正しい心肺蘇生法やAED、エビペン注射の使用方法を理解し、傷病者への迅速かつ適切な対応能力を身に付けることができた。生徒厚生委員は、自らが保健・衛生の重要性について認識するとともに、委員としての役割を果たすという責任感が育った。	
(下位組織レベル)	活動計画	活動計画の実施状況			
①衛生・美化意識の高揚	①-1 日常の清掃活動の徹底(競艇)	①-1 開始と終了時間が守られ、多くの生徒が一生懸命持ち場の清掃に取り組むことができた。みんなで使う場所を大切にすると公共心を養うことができた。			学校関係者の意見 生徒一人ひとりが自分を大切に作る心を育成できれば、奉仕の精神や防災意識も高まるのではないかと。
②環境教育の推進	①-2 教室等のゴミ分別の徹底(競艇)	①-2 ゴミ分別度は87%で「あまりできていない」と評価したクラスが2つあった			
③防災教育の充実	①-3 一斉大掃除の計画的実施(競艇)	①-3 一斉大掃除の計画的な実施により、定期的に学校内外の美化が図られた。来客等を迎える意識や態度、作法が育っている。しかし、廊下、トイレの清掃状況に格差が認められ、監督、指導の強化が課題である。			特になし
④健康意識の高揚と啓発活動の充実	①-4 職員室の整理・整頓(クリアデスク)(競艇)	①-4 机上の整理・整頓は個によって差異が明確であった。個の性格はもちろん、業務の煩雑さや多忙化も徹底できない要因にある。工夫と改善が必要である。			
⑤食育の推進及び啓発	②-1 学校林整備作業の実施(1回)	②-1 コロナ禍により学校林整備作業は実施できなかった。			防災啓発活動(段ボールトイレ等の制作)は、今後も継続して欲しい。 被災地エコタワシ、学校林整備作業も再開できればと思う。 オリジナルトイレが家庭に普及することを期待する。
	②-2 環境ISOの推進(競艇)	②-2 学校における節電・節水・ゴミ分別・リサイクル活動に、継続的に取り組んだ。生徒も教員も共に環境に対する意識が高まった。			
	③-1 学校防災計画の作成と職員への周知安全点検の実施(指)	③-1 5月に学校防災計画を策定し、職員室に掲示し内容を確認した。業者の安全点検に同席した。			厚生委員会での生徒の主体的な活動がよくできている。
	③-2 防災教育ワークショップの実施(1回)	③-2 外部講師を招聘しての防災教育活動は中止した。代替として、HR単位で探究的な学びの手法を体験する中で、震災復興に取り組むまちづくりを参考に、防災に対する意識の向上を図った。			
	③-3 教職員研修会の実施(指)	③-3 コロナ禍により防災教職員研修会は実施できなかった。			④-1 シミュレーション実習の導入 ④-2,3,4,5 継続実施 ④-6 継続的な実践につなげる指導方法の工夫と家庭との連携強化
	③-4 効果的な訓練の実施(指)	③-4 徳島中央広域連合中消防署と連携し、通報・避難・消火訓練を7月13日に計画していたが、コロナの関係で消防署員の派遣が難しいため、本校職員の指示で避難訓練を実施した。			
	③-5 地震等発生時(深夜、休日等)の迅速な対応(指)	③-5 本校の「防災計画」に基づき対応することを確認した。			
	③-6 被災地支援と防災啓発活動(競艇)	③-6 コロナ禍により被災地支援は実施できなかった。生徒がオリジナルの携帯トイレを製作し、各自持ち帰り、災害に備えるとともに、家族の防災啓発活動に努めた。			
	④-1 心肺蘇生法・食物アレルギーに関する講習会の実施(競艇)	④-1 7/13 心肺蘇生法・食物アレルギーに関する講習会を、体育科教諭と養護教諭が講師となり実施した。			
	④-2 「保健だより」の効果的な活用(競艇)	④-2 保健だよりの教室掲示に当たりHRで生徒厚生委員が内容説明を行った。内容は生徒の健康課題に合ったものやタイムリーな情報を集め、見やすいレイアウトを工夫した。			
	④-3 厚生委員会活動の活性化(競艇)	④-3 手洗い場の管理(石けん液、消毒液の補充)、健康診断の補助、阿波高祭の救急処置活動、保健だより教室掲示の事前指導等、年間を通して活動を支援した。			

	<p>④-4 保護者，関係機関との連携(競艇)</p> <p>④-5 学校保健委員会の充実と結果の活用(競艇)</p> <p>④-6 生活習慣改善プロジェクトの実施(競艇)</p> <p>⑤-1 食育全体計画の組織的な実施(競艇)</p> <p>⑤-2 学校家庭クラブの啓発活動(競艇) (家庭・地域への情報提供)</p>	<p>④-4 12/17 吉野川保健所管理栄養士 篠原芳恵氏とAWAがん対策募金理事 宮本良之氏を招聘し「がんを予防する生活習慣」の講演とがん検診を勧めるメッセージカードの作成を実施した。</p> <p>④-5 12/8 学校保健委員会を開催した。学校医，学校歯科医により，感染症やむし歯の予防対策や生活習慣改善等について指導助言を得た。内容については，保健だより1月号に掲載し，生徒，教職員に周知した。</p> <p>④-6 臨時休業中に健康力アップ30日作戦を実施した。健康の保持増進を目指し，生活習慣改善に向けての身近な取組を継続的に行った。適切な目標設定を指導し，70%実現を目指した。</p> <p>⑤-1 各教科，領域における指導内容を整理し，体系的に全体計画を策定した。今後は家庭との連携が課題である。</p> <p>⑤-28/31 家庭クラブ委員が野菜の日に関連して製作した野菜摂取の啓発ポスターを掲示し，野菜摂取の必要性と現状について取り組んだ。また，野菜摂取を目標に各自が考えたレシピをコンテストに応募した。(177名)今後は家庭への情報提供が課題である。</p>		<p>特になし</p>	<p>⑤-1 食育全体計画の家庭への周知 ⑤-2 継続実施「食育便り」の発行</p>
--	---	--	--	-------------	--

* 「評定」の基準

総括評価表

重点課題 7

「学校、地域の活性化と新しい学校づくり」

*「評価指標」の()内は、昨年度の目標→実績

重点目標	自己評価		学校関係者評価		今後の改善方策				
	評価指標と活動計画	評価	総合評価	総合評価(評定)					
(全体レベル) これまでの教育を充実・発展させるとともに、大学入試改革等、社会の変化に対応した多様な教育を創造し、地域に根ざした活力と魅力ある学校づくりを推進する。 (下位組織レベル) ①教育活動の見直しとスリム化 ②高-大、高-社会への円滑な接続 ③広報活動の充実 ④組織マネジメントの定着 ⑤主権者教育の充実 ⑥組織的、系統的な消費者教育の推進	評価指標 令和2年度中学生進路希望調査に係る本校希望生徒数 定員の1.2倍以上 (1.2倍目標→1.21倍)	評価指標による達成度 令和2年度中学生進路希望調査に係る本校希望生徒数 定員の1.16倍	評定 B	総合評価 評定 B	総合評価 (評定) B				
	①職朝5分以内実施率 70%以上 (3分:80%目標→65%) 職員会議1時間以内実施率 80%以上 (70%目標→80%) 行事削減率 3% (2%目標→3%)	①職朝5分以内実施率 75% 職員会議1時間以内実施率 53% 行事削減率 → 行事中止36件 (18%)	B	所見 新学習指導要領、大学入学者選抜改革の動向を踏まえつつ、教育内容を検討、実践していく必要がある。地域に根ざした活動を、生徒主体による取組としてさらに活性化させたい。学習により培った力が他者や社会に貢献することを実感し、「生きる力」に繋げていくことができるよう、今後も、地域と強く連携できる学校づくりを推進していきたい。中学生やその保護者に対して、中学校への進路説明会やホームページ等による本校の魅力の発信を強化していきたい。					
	②外部講師活用数 12件以上 (30目標→31)	②外部講師活用数 10件	B						
	③学校説明等訪問中学校 10校以上 (10校目標→9校)	③学校説明等訪問中学校 10校 (うち新規2校)	A						
	④行事報告書(評価記入済) 100% (100%目標→100%)	④行事報告書(評価記入済) 100%	A						
	⑤政治への関心度 92%以上 (95%目標→91.4%) 学校行事、HR活動等実施数 8以上 (8目標→8)	⑤政治への関心度 90% 学校行事・HR活動等実施数 13	B						
	⑥消費者教育講演会の理解度・満足度 82%以上 (80%以上目標→82%)	⑥消費者教育講演会の理解度・満足度 83%以上	A						
	活動計画 ①-1 教育活動の選択・集中とゆとりの確保(教職)	活動計画の実施状況 ①-1 コロナ禍の影響で、年度を通して計画を常に見直しつつ活動した。時期や実施方法の変更、中止等を行った。変更による教職員の負担増加も多くなった一方で、中止により業務が無くなったものもある。	学校関係者の意見 業務改善として職員会議は1時間以内としてほしい。個人、学校、校外での業務の洗い出しが必要である。			①-1,2 教職員の負担減を図る			
	①-2 教職員の意識改革と既成概念からの脱却(教員)	①-2 自身の勤務時間の把握ができるようになったが、物理的な業務の効率化は同時には進んでいない。意識改革との兼ね合いが重点だが共通及び個別の課題の洗い出しをする必要がある。					特になし	②継続実施	
	②「総合的な探究の時間」の充実(総経,1,2年団)	② キャリア教育と連携し、学びや活動の振り返りを行い、自らの成長や課題について自覚させる機会を多く設けた。特に、1年生では、様々な学問分野の今日的な課題を知る機会を設け、2年生では、探究のプロセス習得とともに、阿波市と連携し、課題研究に取り組んだ。							地元紙等、阿波高生の活躍が掲載されていた。地域との連携強化は、今後の学校運営に益々必要となるので、更なる取組をお願いしたい。創意工夫して必要な行事を実施したことがよくわかる。
③-1 ホームページの充実(情報教育課)	③-1 年度途中でホームページの全面的更新が必要となったため、新しいレイアウトでより充実したホームページを構築中である。	特になし			④-1,2,3 継続実施				
③-2 中学校での学校説明会の実施(教務課)	③-2 依頼のあった10中学校の進学説明会等に校長と教務主任が出向き、スライドにより本校教育の概要等を説明した。また、中学校への個別訪問を実施し、中学校長及び進学主任等に本校教育の概要等を説明した。								
③-3 学校公開(授業等)の実施(教務課)	③-3 オープンスクールを実施し、ICTを活用した授業および部活動を公開した。								
③-4 学校案内メディアの開発(教務課)	③-4 中学生対象の「スクールガイド」の内容や表現を見直し、わかりやすいものに改善した。								
④-1 学校評価システムの適切な運用(教務)	④-1 前年度の評価結果等を踏まえ、評価指標、活動計画を策定した。教育活動の見直しや改善を図り実践する意識が生まれた。								
④-2 行事計画書の報告、評価の徹底(教務)	④-2 行事の目標を明確にし、目標達成に向けた具体的計画を策定した。その際「期待される成果」を具現化した態度や行動としてあげ評価の視点とした。								
④-3 目標管理シートとの連動性強化(教務)	④-3 「自己申告」に、学校の教育目標、経営方針の観点を入れ、組織の要請と個人の目標の統合を図り、自己の役割を踏まえて目標を設定し実践した。								
⑤-1 主権者教育教職員研修会の実施(公民科)	⑤-1 4/7予定通り実施できた。		主権者教育及び消費者教育が「生きる」ことの基盤になる教育であると、生徒が気づくような取組をお願いしたい。	⑤-1 継続実施 ⑤-2,3 各課、各教科との連携の更なる深化					
⑤-2 全体計画の作成と実施(公民科)	⑤-2 主権者教育における学校全体の目標を明確にし、教育活動全体を通じて主権者教育を行うための全体計画を策定することで、教職員間における目標・計画の共通理解を図った。12/18阿波市選挙管理委員会の協力を得て、2年生全員を対象に選挙スクールを実施した。また、								

<p>⑤-3 教科，領域間の連携(鑑類)</p> <p>⑥-1 知識，経験を持つ人材の活用(消費者教育担当)</p> <p>⑥-2 魅力ある授業の展開(各教科)</p> <p>⑥-3 教科間の連携(各教科)</p>	<p>2年生は総合的な探究の時間で，地域の課題について考える取組を2,3学期に実施した。</p> <p>⑤-3 話し合いの十分な時間が取れなかったが，公民科や総合的な探究の時間，ホームルーム活動等との連携を図った。</p> <p>⑥-1 四国大学の加渡いつみ先生に來校いただき，ZOOMを活用した講演会を行った。持続可能な社会を目指したライフスタイルの確立に意欲と関心を持ち，学習活動に取り組むことができた。</p> <p>⑥-2 消費者庁が作成した「社会への扉」を活用し，授業を実施した。家庭科を中心に，ICTを活用した授業を展開するとともに映像教材(DVD等)の開発を行った。</p> <p>⑥-3 公民科と家庭科が連携して消費者教育に取り組んだ。</p>		<p>特になし</p>	<p>⑥-1 継続実施 ⑥-2 教材の開発 ⑥-3 継続実施</p>
---	--	--	-------------	--

* 「評定」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:あまり達成できなかった D:全く達成できなかった